

2023年5月29日

株式会社積水化成品沖縄（沖縄県うるま市字栄野比1178-2 社長：塩山泰章）は、県内初の運用となる油化装置を導入し、島嶼地域での海洋プラスチックごみ問題の解決に向けた新たな試みを開始しました。

油化装置による発泡スチロールのリサイクルを開始

1. 背景

積水化成品沖縄は、1965年に創立後、積水化成品工業株式会社の子会社としてグループ一体となり、低炭素・循環型社会の実現を目指し、環境と共生するモノづくりを展開しています。軽量かつ断熱性に優れ、物流容器や梱包材として普及する発泡スチロールは、1970年代から業界全体でリサイクル活動に取り組み、国内リサイクル率は92%（2021年実績^{*1}）に達しています。このたび、廃棄物を出さない新たな取り組みとして、資源循環の手法の一つである油化装置を導入しました。

2. 概要

油化装置の開発・製造を株式会社エコ・エナジー、沖縄県への油化装置の誘致・運用などを有限会社ディ・エス・エスと協働して油化技術に取り組み、県内での油化装置の稼働を可能としました。

この油化装置は県内初の運用となり、島嶼地域での海洋プラスチックごみ問題の解決に向けた、新たな試みとなります。

積水化成品沖縄では、工場に油化技術を取り入れることで、廃プラスチックの削減だけでなく、現場で再生した油を、工場内で使用するボイラーなどの燃料として活用し、CO₂排出量削減とともに工場内リサイクルを推進していきます。



油化装置

3. 今後の展開

今後、積水化成品沖縄では地元企業への見学会を開催し、環境への取り組みを強化していきます。また、積水化成品グループ全体でも、2050年にカーボンニュートラルの実現を目指し、従来から注力している3R (Reduce、Reuse、Recycle) に、独自の2R (Replace、Re-create) を加えたSKG-5R を実践し、事業活動を通じた環境負荷低減の取り組みを推進していきます。

*1 データ提供：発泡スチロール協会 (JEPESA)

以上